

分野別協議

子どもの支援

平成26年2月17日

岩見沢市子ども・子育て会議

分野別協議 子どもの支援

これまで「岩見沢市の現状と課題」「分野別協議 幼児期の教育と保育」の資料の中で、今後子どもの数が減り続けるという予測についてお話してきました。しかし、子どもの数が減ってはいるものの、子どもが過ごす環境は多様化していることがニーズ調査からも読み取れます。

これらのことをふまえ、これからの子どもの支援について、3つの課題から考えたいと思います。

【放課後児童対策】

岩見沢市の公立放課後児童クラブは、児童福祉法の定めに従い小学校3年生以下を対象に、児童館を主な会場として事業を実施してきました。市内には民営の放課後児童クラブが2か所あり、障がい児の受入れや対象学年の拡大などにも積極的に取り組んでいます。

平成24年の児童福祉法改正により、対象が小学校3年生から小学校6年生まで引き上げられたことから、今後、放課後児童クラブの高学年利用について検討しなければならないことになりました。小学校6年生まで引き上げについて、国は平成27年度施行を予定しています。

○放課後児童クラブの利用状況(H24 実績)

施設名		利用定員	登録児童数	利用児童数/日	うち留守家庭児童/日
公 営	日の出児童館	70人	65人	30.4人	27.0人
	鉄北児童館	70人	80人	42.8人	33.1人
	春日児童館	70人	39人	22.6人	17.7人
	美園児童館	70人	71人	50.4人	36.7人
	志文児童館	70人	48人	28.4人	24.4人
	幌向児童館	70人	37人	19.2人	16.7人
	利根別児童館	70人	26人	20.9人	16.4人
	東・栄児童館	70人	53人	29.9人	22.5人
	稲穂児童館	70人	45人	28.5人	19.2人
	上幌向児童館	70人	32人	20.2人	14.2人
	中央児童館	70人	40人	26.4人	24.0人
	北真児童館	70人	39人	23.3人	18.8人
	美園小放課後ク	20人	18人	10.7人	10.7人
	来夢21子ども館	70人	80人	49.3人	42.6人
北村のびのびク	70人	60人	22.6人	22.6人	
民 営	スキップ	64人	55人	29.9人	29.9人
	おおぞらクラブ	18人	18人	7.5人	7.5人

○放課後児童クラブにおける障がい児の受入れ状況(H24 実績)

施設名		登録人数	利用児童数/日	障がいの内容等
公 営	幌 向 児 童 館	2 人	1.68 人	身体障害 知的障害 広汎性発達障害 等
	利 根 別 児 童 館	1 人	0.31 人	
	東 ・ 栄 児 童 館	1 人	0.16 人	
	上 幌 向 児 童 館	2 人	1.52 人	
	中 央 児 童 館	2 人	1.02 人	
	北 真 児 童 館	1 人	0.04 人	
民 営	ス キ ッ プ	6 人	3.76 人	
	お お ぞ ら ク ラ ブ	3 人	1.75 人	

平成 24 年度の特別支援学級在籍者は 74 名（1 年～6 年）、放課後児童クラブに登録している児童は 18 人となっています。

また、通所支援事業の放課後等デイサービスを実施する事業所は、これまで、社会福祉協議会が運営する「つみき園」1 か所でしたが、平成 26 年 7 月には北海道社会福祉事業団が放課後等デイサービスを中心とした通所支援事業所を開設し、障がい児の居場所として夏休みや冬休みなどの期間中にも対応する予定です。新事業所の定員は 10 名、バスによる送迎も予定しています。そのほかにも事業所の開設を計画している団体等があり、今後事業所が増えることが予想されます。

公営の放課後児童クラブの定員は 70 名となっていますが、今後、補助基準となる利用人数の見直しも予想されます。

放課後児童クラブの高学年対応については、低学年のような「遊び中心」の活動で良いのかという点についても検討が必要です。

放課後児童クラブは厚生労働省所管の事業ですが、同じく小学生を対象としたものに文部科学省が所管する「放課後子ども教室」という事業があります。この事業はすべての子どもを対象に、地域の方々の参画を得て、学習や様々な体験・交流活動、スポーツ・文化活動等の機会を提供する取り組みです。

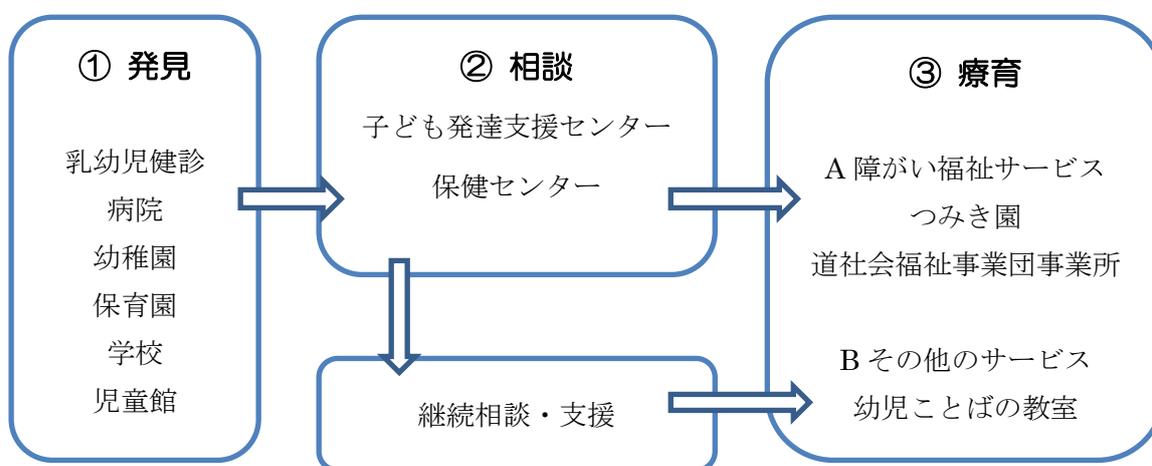
この二つの事業を総合的に推進する仕組みとして「放課後子どもプラン推進事業」がありますが、地域の支援者・実施場所・経費など、課題も多くあります。

【早期発見・早期療育】

市では、社会福祉協議会が運営する「つみき園」を「子ども発達支援センター」に指定し、相談に係る費用を負担しています。ことばの遅れや興味の偏り、落ち着きの無さや衝動性など、早期に対応することによって子どもの成長を支えることができるよう、相談事業の充実をめざしています。

子ども発達支援センターでは、来所相談に応じるだけでなく、乳幼児健診会場、保育所、幼稚園などにも出向いて、観察・相談を行っています。

※ 障がいの発見から療育への流れ



○つみき園

心身に発達の遅れやつまづきのある子どもの療育のため、児童福祉法に基づき、通所支援事業（児童発達支援、放課後デイサービス）及び相談支援事業（サービス等利用計画の作成）を行っています。サービス費用の1割が自己負担となります。

※ 平成24年度 延利用者数 2,727人、1日平均利用者数 12.0人

○幼児ことばの教室

ことばの発達や発音など、ことばに関して心配のあるお子さんが、週1回1時間程度、個別の指導を受けることができます。利用料等の費用は掛かりません。

※ 平成24年度 延利用者数 793人、1日平均12人

【遊びを通じた知力・体力の向上】

子どもや子育ての現状を調査するため行ったニーズ調査は、第1回目が平成15年、第2回目が平成21年、今回の調査は3回目となります。

子どもが外で遊ぶことが減り、室内でゲームなどをして遊ぶことが多いという傾向は、全国的なものです。特に雪が多い岩見沢では、冬期間外で遊ぶことが少ないことがわかります。

※公園などで友達と遊ぶと答えた人の割合

時間	平成15年	平成21年	平成25年	
			夏	冬
14:00~16:00	25.4%	13.3%	15.9%	5.3%
16:00~18:00	16.4%	20.4%	23.6%	2.5%

このことを踏まえ、季節や天候に左右されないあそび場を整備するために、専門部会で遊び環境に関するご意見を頂きました。

※あそび場について

- ・走り回るだけでなく、ゴロゴロするのも遊び。
- ・オールシーズン遊べるような空間がいい。
- ・内と外で何かできないか。
- ・ボーンレンドのキドキドは、遊んでいるというよりは遊ばれているようなかんじ。そういう形にはしたくない。

※方向性

- ・できるだけ物が少ないのが一番いいと思う。
- ・キーワードは「木」。(木目の「ゆらぎの線」、木の香り)

※見守り

- ・見守ってくれる人がどんな人かがとても大事(プレイリーダー的な人を配置したい)
- ・ボーンレンドのキドキドでは、保護者が施設の人に子どもを預けっきりで子どもと一緒に遊ばない。
- ・教育大学との連携があるといい

※安全について

- ・幼児と小学生と一緒に遊ぶのは危険だが、一方で異年齢が交流することも大事。
- ・遊びを通して痛みを経験するのも大事
- ・子どもの事故を親の責任と思わない親も多い気がする。

『バルシューレ』について

北海道教育大学岩見沢校では、子どもの遊び経験の少なさから運動技能が育ちにくい点に着目し「バルシューレ」というプログラムについて研究している方がいます。

今後、岩見沢市教育委員会と連携し、学校や児童館などでプログラムを取り入れることも考えられます。

Ballschule Japan ホームページより

「バルシューレ」とは直訳すると「ボールスクール」(Ball school)、子どものボールゲーム教室のことで、その運動プログラムはドイツ・ハイデルベルク大学スポーツ科学研究所で開発されました。

現在、子どもたちの外遊びが激減し、オールラウンドな体力・運動能力を身につける機会がめっきり少なくなっているなか、ドイツ・ハイデルベルク大学スポーツ科学研究所が開発したバルシューレ運動プログラムは、種目横断的な子ども用ボールゲーム指導プログラムとして注目を集めています。

